

SAAJ 日本システム監査人協会報

— 中部合宿報告 —

「システム監査人のための ISO9000 セミナー」

No.651 伊藤 義昭

中部支部主催の合宿研修として、一昨年行われた「システム監査実践セミナー」に続いて二回目の研修として開催されました。基調講演をテーマとした討論と発表、分科会毎に各テーマを決めての討論と発表など、大変有意義なカンファレンスとなりましたので、その模様を報告します。

1. 開催日時

平成9年11月29日(土)13:30
～11月30日(日)13:30

2. 開催場所

岐阜県養老町 豆馬亭

3. 参加者(順不同、敬称略)

Aチーム：堤 薫、茨木 晴之、山崎 拓、
中西 昌武、浅井 君江、原田 奈美
Bチーム：澤 貞夫、西脇 滋、渡辺 武久、
吉田 敬治、植野 真由美、
片寄 小百合
Cチーム：原 善一郎、堀 明雄、中田 茂、
四ツ目 浩美、萬代 みどり、
伊藤 義昭

(計18名)

4. 内 容

29日 基調講演3題、報告1題と討論

基調講演：

「ソフトウェアの品質とISO9000」
堀 明雄氏
「新システム監査基準実務手順書」
片寄 小百合氏
「CSSの諸問題」
堤 薫氏、萬代 みどり氏

報 告：

「学会の動向」 中西 昌武氏

30日

- (1) 分科会での研修テーマを決めて、討論と発表
 - Aチーム：システム監査手順の浸透法
 - Bチーム：パッケージ時代のシステム監査のあり方
 - Cチーム：「新システム監査実務手順書 CSS 編」のISO9000とのクロスリファレンス作成、そしてPR、利用促進をするための検討項目
- (2) 中部支部としての来年度活動テーマ案の列挙(次回例会で検討)
 - Aチーム：SAAJ営業力の強化
 - Bチーム：失敗事例に学ぶ監査のあり方と人材育成
 - Cチーム：「新システム監査実務手順書 CSS 編」のISO9000とのクロスリファレンス作成、そしてPR、利用促進をする

5. 参加後の感想

各討論のうち、次の二つの議題について感想を述べさせていただきます。

(1) ISO9001認証取得の経営的な効果

私の所属する会社でも来年10月認証取得に向けて活動中であるため、考えさせられるものでした。どちらかという業務負荷の掛かるマイナスイメージの活動の中で、項目毎に期待効果は上げられるものの実態との齟齬に疑問を感じているところでした。改めて「経営的な効果」を考えることは、これからの品質保証システムの構築に役立てられるものと思います。

(2) SAAJの今後の活動と方向性

情報システム化の方向は、「有効性」「社会性」「公共性」といったキーワードで表わされるネットワーク社会に向かっていきます。この方向に対応できるシステム監査のあり方を検討して行くことが、SAAJの活動の方向性を示すことになるのではないかと思います。

どちらかという「後向き」の活動を、時代を先取りした「前向き」の活動に変えて行く必要があるのではないのでしょうか。

赤目のイノシシと準会員

No. 721 中田 茂

猪猟は法律で「日の出から日没まで」と決められています。猟師は夜のうちに猪を探して、昼間の猟に備えます。猪の目はライトに反射して赤く光るので暗闇でも探せます……。

システム監査人協会の準会員として中部支部の例会に参加させて頂くようになってから1年半になります。例会に何度か参加するうちに、メンバーの皆様がただ者でないことは感じていましたが、今回の合宿をとおして改めて強者ぶりを見せつけられました。システム監査人としての高いスキルもさることながら、短時間のディスカッションで時間どおりに成果物を作り上げる能力の高さを見て楽しくなってきました。短いディスカッションのほとんどが「有意義な雑談」に費やされていても、その中に埋もれているエキスを抽出してテーマに合わせた結論に繋げるという能力を全ての参加者が持っていることを再認識して、非常に良い刺激を受けました。個人的には密かにシステム監査技術者試験に論文があるのはこの合宿を円滑に運営するためではないかと考えてしまいました。

私は来年秋のシステム監査技術者試験に向けて修行中の身ですが、今回の合宿は試験までのモチベーション維持に大きなプラスになったと思います。

合宿では子供みたいに興奮しすぎたのか寝付きが悪くて睡眠不足ぎみでした。2日目の朝、顔を洗いながら鏡を見ると、目が充血していました。もしこの赤い目で暗い山の中をうろついていると……。

土日を休めなかったおじさんのお話

No. 4 澤 貞夫

12月1日某社昼休みの喫煙室での私と常務さんの会話。

私「土日は養老できついスケジュールの勉強会でしてネ、でも夜は猪鍋でしたよ」

常務「ほうどんな勉強会だったの。養老で猪鍋とは良かったじゃないか」

私「私がシステム監査を研究している会の会員であることは前にもお話ししましたネ、そのメンバーとです。中部支部と言うことに

なっていますが参加者は西は四国の香川から、東は東京、北は長野そして私の関西で合計18名です。土曜の午後は1時間の基調講演と30分の討論と報告を1クールにそれが3回です。大抵の勉強会では議論は出るが報告者泣かせの話ばかりで纏めるのが大変なのが普通ですが、参加者のレベルが高いので議論は活発ですが議題を外さない議論と論文を書くことに慣れていましてから最後は実にうまく纏めます。私の頭の中では議論の途中では7?8割程度しか纏まっていないうえそれを上手く補完する議論がなされ最後には頭の中に整理された状態になるのです。講演の内容はシステムに関することばかりでしたがネ」

常務「面白い話題はなかったのかネ」

私「システム監査基準はそのままパッケージソフトの選定から運用迄について適用できるかというテーマをメンバーで討論しました。システム監査基準をそのまま適用することは無理があるという結論になりました。面白いのはその後の議論です。適用できないならパッケージソフト用の基準を作ろうという話にまで発展し、本当に作るだけの力を持ったメンバーなのです」

常務「いい人とお付き合いが有るのですネ」

そんな会話の後からは現実の仕事が待っています。仕事の中ではN社のオフコンのデータをM社オフコンのデータに変換する手当てをシステムの委託先に探すように言ったのですが見つからなかったとのこと。こちらからテストデータ用に用意した方法でやってほしいと言ってきた。発注依頼をする時に方法は有るのかと営業に念押ししたら実績が有るから大丈夫ですと言っていたのに。と予定通りに進まないことにいらいらする通常に戻りました。

そしたら参加者のN氏からのメールで「合宿お疲れさまでした」とあり「私もまだ疲れが残っています。でもあのメンバーと仕事をすれば楽はできるが疲れは溜まるでしょうネ」と返信しました。

地元の人は伊吹山に雪が3回降ると次は里まで下りてくる言います。今日は4回目なので地面はいちめん白くなっています。去年は12月1日が初雪でした。今年は今日が初雪です。

12月2日 夜。

中部合宿に参加して

No.706 原田 奈美

ISO9000カンファレンス？これが今回の合宿のテーマでしたが、私は絶妙のタイミングで参加することになりました。というのも、私がシステム開発に参画しているユーザ企業が、ISO9001認証取得にむけて活動中であったからです。おかげで、他社の事例を興味深く拝聴することができました。

また、カンファレンスの名のとおり、グループディスカッションとその結果発表が5回もありました。ディスカッションの内容が濃かったのはもちろんですが、プレゼンテーションの勉強にもなりました。

クライアント・サーバシステムのトラブル防止策等も、多くの事例からヒントをいただき、非常に参考になることが多かったです。

2日目のグループ発表は、「システム監査の普及策について」をテーマに採り上げました。「システムクリニック」のようなソフトイメージを作るのがよいのでは？などや、「監査人協会のメンバー一人一人が営業マン」というスローガンのもと、周囲の啓蒙と一層の普及活動に励んでいこうということ話し合いました。

今後は自分自身、システム監査そのものの研究と、実務への応用をさらに実践していく所存です。いろいろなことを考える良いきっかけになった合宿でした。ありがとうございました。

— 実践セミナー —

平成9年11月7日、8日

「一人ではできません、ぜひ参加を」

東京都水道局

No.498 水野 英治

試験には通ったもののシステム監査の経験がない私は、とても心細い思いをして実践セミナーに参加しました。幕張に行くのも初めてで、いかにも最先端という感じの町並み、そして立派な研修会場、もうそれだけで気圧されてしまいました。何の知識もないし、はたしてついて行けるのだろうか、自信がまったくありませんでした。

でも心配はありません。システム監査未経験の皆さん、是非このセミナーに参加してみてください。何とかなるものです。チームを組んでみんな

で考えれば何とか問題点は見えてくるものだと実感しました。もちろん他の受講者にめぐまれて勉強させてもらったというのが正直なところですが、システム監査はとて一人で出来るものではないということを痛感いたしました。

特に近くに仲間のいない方は、一人で苦労しておられる方が多いと思います。システム監査とはどのようなものか、やってみようと思って「実務手順書」などを読んででも具体的に何をすれば良いかわからない方もいらっしゃると思います。私の場合は、このセミナーに参加することで、チームを組んで、計画を立て、話し合いながら問題点や改善案が少しずつまとまって行くことを経験できたので、一人であれこれ悩んでいたことがかなりの回り道だったなあと感じました。そして、自分のような不勉強なものでもとにかくやってみる、チームで相談しながらやってみる、そのことで勉強になる、経験することが何よりの勉強なのだ、と感じました。

なかなかこういう機会が得られない方も多いと思います。一人でも多くの方がセミナーに参加され、システム監査を体験していただきたいと思います。

エンジン全開！24時間

(株)システムブレイン

No.356 桜井 由美子

私の会員番号は300番代。会社では社内プロジェクトの開発過程の業務監査を仰せつかったのをきっかけにシステム監査の勉強を始め、7年前に会員になりました。当時から事例研に所属していましたが、入ってまもなく主人の転勤で3年半ほどのブランクを開けたこともあって、いまだに模擬監査の経験はありません。復帰後、仕事上でシステム監査に触れることもなく2年が過ぎましたが、こにきてやはりシステム監査の知識を生かした仕事がしたいと思うようになり、古株ながらもセミナーに参加させて頂くことにしました。(復帰後、横田から桜井に改姓しましたがDivorceではありません。)

◇実践セミナー参加の印象

土曜の13時から日曜の13時までの24時間。実によくできた集中講座でした。時間のかかる資料整備(会社や対象システムの資料、トップインタビュー議事録、アンケート調査結果のまとめ等)はすでに済み、研修用資料として要領良くまとめて事前配付されており、当日は、監査計画

策定、予備調査ヒアリング、本調査ヒアリング、報告書骨子作成と、監査業務のハイライトを楽しめるようにうまくお膳立てされていました。それもロールプレイングゲーム付きで。ポーカークフェースの講師陣に質問しながら、問題は何か？犯人はだれだ？動機は何か？など、まるで刑事コロンボになった気分でもぞ解きに集中しました。

チームメンバーは皆一言いわずにはいられないつわものぞろいなので意見がアレコレ噴出し、一時はまとめがどうなることやらハラハラドキドキでしたが、○芝の△△レットを駆使する若者もいたりして最後は見事？に軟着陸することができました。ちょっと短く感じられる制限時間の中で、まさにエンジンを全開しての受講でした。制限時間付きでの仕事は十分に時間がある場合と違って自分に欠けている部分が浮き彫りにされてくるものです。今回も自分の補強箇所が幾つか見つかるとしては非常に有益なセミナーでした。

◇監査実務について感じたこと

今回は現行システムの効率性の監査が研修テーマでした。私は常日頃、システム監査は監査という名がついているが、法定監査になっていない以上、監査の方法をとりいれたコンサルティングだと思っておりましたが、今回、効率性の監査を試行してみて、さらにその思いが強くなりました。セミナー開始冒頭に、講師の方から法定監査はあら探さず、任意監査はコンサルで、相手を助け喜ばせるところに意義があるとの話がありましたが、まったく同感です。

また、質問は漫然と乱発するのではなく、まずは自分の中で仮説を立て、相手を誘導しながら実状や問題点を順に確かめていくようにするのだという話がありましたが、それは仕事として効率よく監査業務をこなすための重要なアドバイスでした。ただ、当たり前のことながら、監査対象のあるべき姿を自分で事前に描けていないと気のきいた質問もできないわけで、今回のように企業相手の効率性の監査を行うためには、システム監査の基礎知識だけでなく、相手企業の経済活動のしくみや、管理ポイントを的確に押さえておく必要があることを痛切に感じました。

◇監査研修のあり方について

百戦錬磨の公認会計士諸氏は別として、情報処理システム監査技術者の大半は、外部監査の経験がほとんどないといっても過言ではないと思います。システムといっても所詮人間が相手

の仕事ですから、机上の勉強だけでなく、場数を踏むことが一番大切なことだと考えます。ですから、研修としては本セミナーのように監査の疑似体験を目的にしたものが最適だと思います。実践してみて初めて自分の得意不得意がわかるものです。来年のセミナーには皆様奮って参加されることをお勧めいたします。

それにしても我々大きな生徒のために、貴重な土日を返上してボランティアでお付き合いくださいました講師の方々に、あらためてお礼申し上げます。

97年11月8日、9日システム監査 実践セミナー参加の印象について

日産コンピュータテクノロジー(株)

久保田 誠志

1. 全体について

- ・ 私個人として、監査についての実際面での経験が乏しく、今回実践の場を持っていただき大変参考になった。
- ・ 特に、資料に基づいての事前の調査、検討→実際のヒアリングまで一連の監査プロセスを体験できたことは非常に有意義であった。
- ・ 又、監査実務で既に実績をあげられている先輩諸氏の有効なご指導を賜り、監査実務の一端に触れることが出来たことは大変貴重であった。
- ・ 実際の監査では、いろんな専門家を集めてプロジェクトとして進めることになると思われる。
- ・ その場合、監査リーダーの監査に望む姿勢とか考え方とか判断とかが重要であり、それは「監査実務の経験に基づいた実戦的技術がキー」になるような実感をえた。
(監査は経験工学)
- ・ 今後、私個人として、監査業務、又は監査的な視点(例えばシステム開発、運用面でリスクヘッジを問われる立場)で関わりをすることが多くなることを考えると、日ごろからの実戦的技術をどう身につけるかが課題となった。
- ・ これは監査セミナーにあって監査の課題を持ち帰ったようなものであるが、監査技術者としての日ごろからの(問題意識の持ち方についての)心構えを身につけるきっかけとしたい。

2. 課題について

- ・ 今回の課題は、自分が全く経験していない業種についての課題であり、このような業種での監査がはたしてできるのだろうか？と不安であった。
- ・ しかし、資料の分析やヒアリングを通じて、監査のプロセスに触れることが出来た。その意味では、経験のない業種、システムについても適切なアプローチをとれば的を得た監査が出来ることが分かり、良い課題であった。
- ・ 但し、今回、時間的な制約の下、監査課題解決のプロセスをはしょったくらいはあったことは否めない。

3. その他

- ・ 今回、全く関わりのない方々と、監査というつながりで場を共にすることが出来たのは大変貴重であった。
- ・ 今後、今回得た経験と知識を有効に活用することと併せて、一緒になった方々との繋がりを大事にしていきたい。

実践セミナー参加の印象

新日鉄情報通信システム 大分支社

No.465 藤平 実

システム監査実践セミナーを今年も開催していただき感謝しております。実は、第1回目の時に受講したいと思いつつ都合が付きず諦めていました。しかし、次にまた参加出来る場ができれば是非参加し勉強したいとの想いでおりました。従いまして、まずは土日に関わらず今年も開催し、かつ熱意を持って対応していただいた橋和会長、事務局、講師の方々にお礼申し上げます。どうも有り難うございました。

個人的にはこれまでに製鉄所のある製品に対するISO9000受審での事務局、及び計算機センターの運用監査を受ける側での経験をしましたが、機会があれば是非参加し監査する立場での経験が出来ればと思っておりました。

1. 実践セミナー参加の印象

予想に反して参加者が少なかったのには少し残念な気がしました。しかし、意欲的かつ経験豊富な方々とプライベートな形でお互いに研磨出来る機会を得ることが出来、参加してよかったとの思いです。

事前準備までのご努力に感謝。研修を今会ったとは思えない様な雰囲気です。セミナーを始めら

れたのは、集まった人たちの目的意識もあるが、根底に事務局の方々のご努力によるところが大きい。具体的には事前準備(演習問題決め、研修方法の検討、テキスト準備、案内等)のご苦労が伝わってきます。個人的にも事務局の鈴木様から前日宿泊を心配した心遣いのメールまでいただきました。また、ボランティア活動である事例研での成果の一端を私達のために本当に誠意をもって対応していただいていることがセミナーを通じて強く感じました。

2. 監査実務について感じたこと

今回の研修で一番勉強になったことは、相手から如何に情報を引き出すかの難しさを学ばせてもらったことです。これまでの経験から多分こういうことだろうと決め込んでしまいがちであり、本質を引き出すには先入観をもってはダメ、また相手の言いたいことを阻害してしまう。そういう意味でヒアリングの研修は緊張感もあり、模擬とは言え真剣になってしまいました。監査を受ける側、監査する側どちらが難しいかというのは一概には言えませんが、相手から真実を引き出すには周到な準備が必要であることを痛感しました。

3. 監査研修のあり方について

1) 時間配分について

開始時間12時30分は、私的な立場での言い分になりますが、前日から出発しなくても当日の朝出て参加可能であり有り難い。朝早くの出発になると思いますが殆どの方が大丈夫と思います。

事前検討、ヒアリング、発表の時間配分については、もう少しヒアリングの時間が持てたらと思いますが、時間も限られていることから、その要領を勉強するためにも今のままでよいと思います。

終わりの時間ですが、15時位までなら遠方者の方もそ日に帰ることが可能だと思いますので、研修のまとめとして講師の方々が行ってきた事例研での活動内容等についてお話していただける時間をもう少し持っていたいただけたらと思いました。

2) 演習方法について

同じ演習問題を他チームも行き、全員の場合発表するやり方は非常に良いと思います。色々な視点での進め方、問題の捉え方も知り大変勉強になりますので次回以降も是非継続すべきだと思います。ただヒアリングについては、出来れば別ルームで別々に行った方が良

い様に思います。理由は、ヒアリングの仕方等参考になる部分は多いが、逆に自分達の足りない部分を補完することになり、チームとしての進め方等の欠点に分からなくなってしまいがちである。

3) 演習問題について

次に、セミナーの演習問題についてですが、率直に言って今回の問題は初めての勉強にしては対象が少し大きい感じがします。またコンサルテーションとの意味合いが大きいためかどうしても信頼性、安全性及び効率性のうち効率性のみになってしまう。実際ビジネスとしてシステム監査の受入れは法制化していない現状では難しいかと思いますが、システム監査主体とした内容の方が初めての人の人にとって馴染み易い様に思います。

今回の研修で、応える立場より聞き出す立場が如何に難しいか的一端を勉強させて頂きました。振り返って見ると、私も応える立場の時は聞かれないこと、言っても差し支えないこと等が頭を横切ったことを思い出します。そう言う意味で今回の経験は私にとって大きな収穫でした。

最後に、九州支部には熱心な方が沢山おり活動が活発です。私もその仲間に入れさせていただいています。全国的なこの様な場にも機会があればまた参加したいと思っておりますので今後とも宜しくお願い致します。

システム監査実践セミナーに参加して

No. 766 ビック東海 遠山 貴志

私が今回システム監査実践セミナーに参加したのは、実際にシステム監査を実施する場合にどのような調査が必要で、どのようなプロセスを経て報告書をまとめるのかを掴むためでした。というのは、私自身、システム監査の知識は習得したものの、実際の経験はおろか、具体的な進め方さえ不明確な状態だったからです。

実際にこの実践セミナーに参加して、短時間でまとめなければならない事(時間の過ぎることのなんと早いこと!)と、対象となった会社に関する知識不十分(思い込み厳禁!)で、戸惑いもあったものの、同グループになった方々のフォローと講師のサジェスションで何とか無事終了できたことに感謝しております。

このセミナーで印象に残ったポイントを箇条書きにしてみると以下のようになりました。

- ・ 経営者の立場で考える
- ・ 役に立つ監査を考える(付加価値のある監査) → 粗探しではない!
- ・ 質問によって回答を聞くだけでなく、背景を読む
- ・ 問題点を構造化して質問項目を作成する
- ・ 事実としてその会社が何を出来ていて、何が出来ていないかを知る
- ・ 出来ている事については褒める事も必要
- ・ 会社のレベルをみて調査項目を考えること
- ・ 教科書的にこうあるべきと枠にはめて考えていくと遠回りになる事もある
- ・ 本調査の前に報告書のイメージを考えて質問項目をあげると効率的
- ・ システムの規模と改善の効果を考慮する

ほかにも、分析における留意点や質問の仕方等、教科書にはない技術を学べた点は今後の仕事にも役に立つと思います。

また、深夜にまで及んだ本調査計画検討会(?)では、バックグラウンドが異なる皆さんのそれぞれの立場でのシステム監査に対する想いが聞け、これだけでも来た甲斐があったのではと感じました。特に、鈴木座長をはじめとする講師陣の“如何にシステム監査の有効性を高め、世に知らしめるか”に関する話はとても興味深いものでした。

最終日、総括として橘和会長からあった話の中で、三洋証券の日本最大のトレーディングルームへの投資についてシステム監査を依頼された場合、それを経営者の立場に立って正しいと見るのか、戦略の妥当性について是非を問うことができるかというシステム監査人への課題については、非常に考えさせられるものがありました。

今回の実践セミナーの参加者は、必ずしもシステム監査を生業としている訳ではなく、むしろ情報システムに対してどうあるべきかを掴む為に勉強してきたという方が多く、九州から飛行機で参加された藤平さんをはじめ、本当に頭の下がる思いでした。

私は現在、社内の電算センターのシステム監査を実施している最中ですが、セミナーでの体験を活かし、少しでもシステム監査の有用性について理解してもらえそうな仕事をしていきたいと思います。

システム監査実践セミナー参加の感想**No. 562 森本 哲也**

11月8、9日の両日に行われた首記セミナーに参加し、多くを学習しました。私がどのようなことを学んだかを会員の皆様にお伝えすることは意味ないことでもあるまいと考え、感想文をまとめました。

5年前の92年の10月にシステム監査技術者の試験を受け、幸いにも合格できましたが、実際のシステム監査は一度も行ったことがなく、肩見のせまい思いをしておりました。というのも、現在勤務している会社は営業メニューの一つにシステム監査を掲げており、もし依頼が来たら、私が資格を持っている唯一の社員である、という体たらくで本当に依頼が来たらどこに下請けをしてもらおうかと心配しているような状態でした。今回のセミナーで幻想かも知れませんが、依頼が来たら引き受けられるようになるようになりました。主催・指導の方々の影響は絶大でした。

振り返って見ると、システム監査技術者資格取得を巡って私の人生は大きく変わりました。たまたまシステム監査技術者を探していた現在の会社に人材派遣会社を通じて入社が決まりました。受験したのも所属していた部門の年度目標として、公的資格取得を掲げたからです。受験準備は、25年勤務者に与えられる4週間の特別休暇を使い大学受験時代なみの勉強をしました。特別休暇が終わると間もなく、リストラの発表があり中高年社員は落ち着いた状態が続きました。私自身は直接希望退職を迫られてはいませんが、かなり破格の割増退職金に目が眩み、良い軟着陸地点があれば移籍してやろうと狙っていた次第です。

移籍前は情報システムのセキュリティを統括する仕事をしていたので、内部監査はかなり経験しております。その企業はマニュアル絶対の社風で情報システムの運営にも厳密なマニュアルが存在しており、担当部門は遵守を強く要請されていました。情報管理に問題ありと指摘されたら責任者の首が飛び会社なので、私が監査に行くと、相手は、何かと無傷でいたいと、何だかんだと逃げ回ります。こちらは、逆にミスを発見しないと上司に文句を言われるので、それは凄惨な攻防でした。

そんな訳で遵守性の監査には慣れています

が、業務処理の巧拙にまで言及せざるを得ないシステム監査には不安がありました。そこで、マニュアルにない部分の監査はどこまで踏み込むべきかを掴むのを、今回のセミナーの主要テーマとしました。オペレータの交代時に関する監査基準はあるので、オペレータ管理については監査できるが、DASDのフラグメンテーションでシステムの処理が非効率であっても、そこは監査基準がないので、触れてはいけない、とも思っておりました。セミナーでシステム監査を体験して見ると、システム監査の本質が分かってきました。要は、自分が培ってきた知識・経験から自分が正しいと考えるところと現実を比較すれば良いことが分かりました。システム監査人協会の会合やシステム監査学会の集会で、システム監査は、コンサルテーションであるという意味を実感しました。

今回のセミナーでは、チームワークがすばらしいと感じました。4人のチームで作業しましたが、全員が積極的に参画し、時間内で最大の成果を出そうと努力していました。企業内の研修では全員があれだけ真剣に討議はしません。必ず御興にぶら下がる人が出ます。それ故、なおさら今回の我がAチームの4人とライバルのBチームの4人、全員の資質の高さと動機付けの強さに感心しました。

そのような雰囲気、得るところは多く、かつ楽しいセミナーでした。指導側の先輩方も我々同様、休日返上して我々に奉仕して下さった訳で、たいへん感謝しております。私も近い将来指導側に回り、恩返しをしたいと考えております。

システム監査実践セミナーに参加して**No.758 黒目 哲児**

とても有意義なセミナーに参加させていただきました。

二日間という短期間のロールプレー方式でのセミナーでしたが、システム監査の進め方、雰囲気をつかむことができ、将来、実際にシステム監査を行う機会があれば、あまり違和感なく取り組めるような自信を持ちました。

当セミナーでは、特にヒアリングの進め方について大変参考になりましたので、この点に絞って学んだことを述べさせていただきます。ヒアリングにあたっては、相手の本音を聞き

出す技術が大切であります。まず相手がこの監査に対しどんな気持ちを持っているか正確に見極め、その上で適切な対応が必要であると感じました。

ヒアリングを受ける態勢には次の3つのタイプがあると思います。

1. 監査に対し敵愾心を持っている人

この人は、基本的に被害者意識を持っているため、なるべく最小限のこと、建前のことしか答えない。たまには嘘もつく。

2. 監査に対し無関心な人

他人事と思っているので、聞かれれば素直に答えるが、問題意識が無いため、表面的な発言しかしない。

3. 監査を通じ、積極的に改善、改革をしようとする人

同じ土俵で作業ができるため、突っ込んだ意見が聞け、問題点抽出の材料を提供してくれる。

ヒアリングの相手がどのタイプか事前に認識した上で相手の意見を聞き、本当に核心をついた意見が入手できたのか、たえずチェックする必要があると感じました。

ヒアリングにあたって留意すべき点は次の通りであるとセミナーを通じて、勉強しました。

1. 質問はどこまで突っ込むか

あまり深く突っ込むと、警戒されたり、当惑されたりし、雰囲気作りにもマイナスになると同時に、冗長を招く恐れがあり、時間の無駄になる危険性がある。ヒアリングにあたっては相手を見ながらどこまで深く質問するか、考える必要がある。

2. 事前情報の入手

事前情報により、ヒアリングしなくても分かる内容、確認だけすればすむ項目もあり、ヒアリングの前にどこまで事前情報を入手できるかが効果的ヒアリングの条件であると考えられる。

3. 監査目的と達成点の共通認識

監査目的と達成点の概要をあらかじめ共通認識し、同じ目線に立った上で会話できることが本音が聞けるヒアリングであると考えられる。そのため、相手に警戒心を持たせないよう、又、チェックをするのが目的でなく、改善、

改革をするのが目的であることを会話を通じて分かってもらう必要がある。

最後にあって、セミナーの先生方から教わった教訓を一言。

クライアントの企業規模、情報処理の体力を見ながら、その企業に合った現実的な提案をするよう心がけるべきである。相手がついていけないような高度な監査報告、ベキ論の監査報告をしてもクライアントに対し、全く役に立たない。

講師の皆様、本当にありがとうございました。

53回月例研究会聴講報告

日時 平成9年10月31日

テーマ 2000年問題の対応方法とその状況

講師 ソフトウェアジェネレーション(株)

代表取締役 本村 昭二氏

No.495 山内 美佐子

昨今何かと問題になっている2000年問題については、いろいろな解決方法が検討されている。今回は、ツールを使用して2000年問題の解決を提案している本村氏に2000年問題の現状も踏まえてお話を伺った。

1 2000年問題

2000年問題とは、次のように定義される。

「現在運用されている情報システムには日付が正しく表現されていない場合があり、2000年を超える日付が発生したときに仕様どおりに稼働しない」

この原因は次の通りである。①日付の年(年度)の上2桁を省略し下2桁で表現することがある。②年度を下2桁で表現する場合、1990年代のみを前提にして2000年を1900年とみなすことがある。そのため、日付の大小比較や期間の計算に誤った判断を行う。

2 解決方法

2.1 基本的な対策

基本的な対策としては、①保守の範囲で修正する、②システムを再構築することが考えられる。が、前者はかかる費用が大きい事、後者は作業が間に合わなかった場合にシステム自体が使い物にならなくなるという問題を含んでいる。

2.2 対策の手順

2000年問題を解決するためには、問題の認識、基本方針の決定、推進体制の設置と資源の

確保する、対象領域の調査、対象領域の修正作業、品質保証作業、移行、事故対策等の作業が発生する。仕様は明確であるが、品質保証作業として同じ機能が動くことを確認しなければならないため、その作業工数が新システムを作成するのと同じ程度かかる可能性がある。

3 手段

3.1 ツールの活用

リバースエンジニアツールの活用することにより、機械的に調査することが可能である。また、ツールを使う事により、品質保証作業の効率化も図ることが出来る。ただし、完全な自動化は難しい。

3.2 一括外注

仕様が明確なので極めて一括外注に向いているが、対象システムは古いものが多いため、対応できるメンバーが少ないこと、単純作業のため、開発会社としてはスキルアップにつながらないことにより積極的には取り組みにくい。

3.3 社内要員

システムを熟知しているメンバーによる修正だと効率が良いが、他の作業が止まってしまう可能性が大きい。

4 対応の状況

4.1 2000年問題の認識

①ジャーナリスト等の報道

1995年位から新聞、専門誌などに上げられるようになった。関連書籍も10冊ほど出版されている。

②メーカーの対応

自社のハード、ソフトの対応は行っているが、作成されたアプリケーションはユーザーの責任で対応することを原則としている。

サポートを打ち切り、対応しないソフトもある。

③官公庁・協会

通産省や自治省が問題をPRし、(社)情報サービス産業協会(JISA)、(社)日本情報システムユーザー協会(JIUS)がアンケートを取るなどの活動を行っている。

4.2 作業状況

①JISA、JIUSのアンケート結果

問題の認識はされていても、対応作業が完了している企業は少ない。

②一般的な認識

大企業の多くは作業に着手しているが、まだ完了はしていない。99年前半で完了する予定の企業が多い。しかし、中小企業にはこれから対応するところが存在している。

感想

2000年問題は様々な新聞、雑誌などで取り上げられ、またJISAなどでも特集されている。ところがその対応度を見ると不十分なところが多く、問題自体の認識度も大企業を除きまだまだ低いようである。

今回のセミナーでは、リポジトリを使ったツールによる問題解決方法の説明があり、この部分は開発方法も関連するため特に興味ももてた。しかも機械的に行うので、これから予想される人材不足に役立ちそうである。

また、別途西暦2000年対応調査表が配付されたが、システムの中の何処に2000年問題が隠されているかをチェックするのに有効な調査表であり参考になった。

第54回月例研究会報告

日時 平成9年12月2日

場所 機械振興会館

講師 日本ヒューレットパカード(株)
プロフェッショナル・サービス事業本部
マネージャ 佐藤 慶浩氏

テーマ

情報セキュリティ方針の必要性と策定方法

No.526 富山 伸夫

はじめに

佐藤氏は同社においてセキュリティ製品の開発に携わって来られたのち、現在は情報セキュリティ方針のコンサルティングと販売に従事しておられます。

情報セキュリティ方針の必要性については、前号でIPAの宮川さんの寄稿や木村理事の記事で述べられているので、この講演の紹介としては、これの策定方法と留意事項を主体に報告したい。

講演要旨

1. 情報システムの構成要素

情報セキュリティの目的は、ビジネスを支える情報を、いつでも、どこでも、安心して使えるようにすることであり、情報の隠蔽はほんの

一部であり、積極的な情報の開示・共有をするための基盤作りにある。

情報システムの構成要素としては、技術・人・プロセスの三つが一体となったものであり、従来はこのうちの人の要素があいまいな役割で認識されていた。ここで人についても意識して情報システムのリスクを考える必要がある。

2. セキュリティの方針の位置づけ

セキュリティの維持は、物理的に外部と遮蔽されたネットワーク環境においては、従業員の個人的なモラル・技術力に依存してもある程度は機能しているが、インターネットによって外部と接続された環境では不十分なものとなる。

外部接続によってセキュリティ方針構築の必要性が顕在化するわけだが、これによってセキュリティ維持のための共通の価値観を作り上げることが大切なことになる。

3. セキュリティ方針作成までの流れ

セキュリティ方針作成には、起案、策定、評価承認、決定の流れがある。策定のためにワークショップが持たれるが、最も大切なのは起案と評価承認の段階での経営会議の承認という事である。

オープン化されたシステムに対するサービス要求・セキュリティ要求・テクノロジ等を勘案して、セキュリティ方針を策定し、これに基づいてセキュリティシステムの上位設計が行われ、利用手引きなどに展開される。

方針書の作成では、方針書の叩き台を示すという方法もあるが、それに倣うのではなく自社でディスカッションを重ねていく事によって、自社の共通認識を自社の言葉で表現するようコンサルティングしている。

4. セキュリティ方針フレームワーク

セキュリティシステム全体の中で、セキュリティ方針は、WhatとWhyを決めるものである。Whatは細かな技術用語なしで目標を決めることであり、Whyは性善説に立って価値観を共有するために重要である。このことによって技術や環境の変化に影響されることなく、セキュリティの戦略(When, Where, Who)・戦術(How)を考えてゆく基盤ができる。

5. セキュリティ・ガイドライン

方針案作成の後に、次の段階として作られるガイドラインの一般的な例として次のようなものがある。

- ・従業員責任
- ・施設アクセス
- ・システム・アクセス
- ・アプリケーション及びデータ・アクセス
- ・管理上特権
- ・監査と記録
- ・要員訓練と啓蒙プログラム
- ・非従業員アクセス
- ・ネットワーク及びダイヤルイン・アクセス
- ・契約雇用員と調達業者の扱い
- ・保守とサポート
- ・緊急事態手順

6. セキュリティ方針の運用

運用にあたっては、米国などでは担当取締役をおいているが、日本では、セキュリティ担当組織としてタスクフォースをおき、方針策定更新、リスク分析、対策実施、訓練啓蒙、監査といった運用サイクルを回して戴くようにしている。方針があればこそ、リスク分析やセキュリティ監査がやり易くなるわけで、この面からもシステム監査との協調が大事だと思っている。

質疑応答

Q：セキュリティ方針が固まるまで、1社でどれくらいの期間が必要か

A：方針を決めようという起案が経営会議などでトップダウンで決定されてから、半日のディスカッションを約10回、週1日として、3ヶ月でけりがつくようにしている。これで方針書の初版ができるが、その後細かな改訂を加えて、約1年かけて整えていくことができる。

Q：方針を作るチームは、その後解散して消えてしまうのか

A：中心メンバーは情報システム部門がなることが多く、ここがあとの運用にあたる。経営企画・法務・人事などが入ったワークショップなので、そこのメンバーが残っていれば、いつでもタスクフォースを作れるようだ。

Q：ビジネス要件が似た企業は各社同じものが出来上がるのか

A：最後に出来上がる文章は意味としては同じものになるが、言葉の表現が違う。

情報システムの仕組みの違いが反映することと、ディスカッションの経過でビジネスの見直しにもなっており、自社の言葉になっていないと社内への浸透が違う。

Q：既存システムの見直しまでコンサルティングする機会があるのか

A：HP社のセキュリティ製品がからむところで、投資を決定したり製品パラメータをお客様が設定する際に、方針がないとどうにもならない所がある。米国などあるのがあたりまえだが、日本では方針設定の段階から始めなくてはならないという所が多い。

感想

セキュリティ製品の開発販売にあたって、まずHP社自社でセキュリティ方針を策定し、さらに顧客企業に実際にコンサルティングしてきた実績をもとに話された内容で、非常に分かり易く且つ現実感のある講演でした。セキュリティの監査といっても、セキュリティ方針が不明確な段階では、理屈(監査基準書)や他所の事例を基にするしかないわけで、一番大切なところがなんとなく分かってきたような気がして有難かった。

(追記)

情報セキュリティ方針は重要なテーマですので、この講演の内容をさらに次回以降3回程度に分けて「情報セキュリティ方針講座」として、連載する予定です。

セキュリティ・技法研究会 合同活動報告

No. 644 増田 恒一

平成9年12月の会報の冒頭の「セキュリティポリシー(方針)の立案とその監査」という題目で、インターネットドラフトとしてインターネット上に公開されている文書の紹介をされていたことは記憶に新しいと思います。

IPA(情報処理振興事業協会)のホームページには、この文書の中から宮川さんが訳されたSite Security Handbook(SSH)という文書の日本語訳が掲載されています。

(URL: <http://www.ipa.go.jp>)

技法研究会が宮川さんと接触を持った際に、インターネットドラフトの日本語訳の話となり、SSH以外にもたくさん文書があるので日本語に訳してみないかとの話になりました。セキュリティ研究会と両方で活動しているメンバーから、セキュリティと技法の両研究会の合同の活動でおこなっていかないかとの提案があり、今回はUser's Security Handbook(USH)という一般ユーザー向けのセキュリティの文書を

訳すことになりました。

インターネット上で公開されているUSHの英語の文書を取得し、7名で分担を決めて各自が訳したものを持ち寄って読み合わせをするという形で、今年の9月26日から、計4回の会合を持ちました。

英文の文書の日本語訳などあまりやっただことのないメンバーが多く、また英語独特の言い回しや、ジョークなども多かったため、直訳すると迷訳・奇訳が続出してしまい、意味が解る事を重視してある程度意識を含む事になりました。取りまとめた日本語訳を、宮川さんに確認してもらい、発表します。

インターネットで世界中の文書がすぐに取得でき、またその文書の大部分が英語で書かれていることを考えると、英文を読むことの重要性を感じます。また、日本においてはこういったインターネット文書を日本語に訳して公開する事も重要だと思います。

今回の日本語訳は、日本システム監査人協会のホームページ上で一般に公開することを計画しています。この記事が会報に掲載される頃には、会員の皆さんに見ていただけることと思います。

今後も、システム監査やセキュリティの普及に役立てる様な、研究会活動を続けていきたいと思っています。インターネットドラフトの翻訳も継続的におこなう予定です。参加希望者を募集しています。直接会合に出席できなくても電子メールを利用した活動も可能です。セキュリティ研究会・技術研究会まで連絡をお願いします。

(E-mail ;PXM02272@niftyserve.or.jp 金子宛)
または、Yoichi.Kimura@k-van.co.jp 木村宛)

近畿会報告

『FAシステムにおけるシステム 監査の考察』

No. 707 神尾 博

1. はじめに

現在、工場におけるFA(Factory Automation)分野のみならず、更に交通、医療、防災、ビル管理、農業等の産業においても言うまでもなく、HA(Home Automation)ということで一般家庭にまでコンピュータを中心とした制御システムの普及が進み、もはやコンピュータシステム無くしては生産や生活ができない状況にまでなりつつある。

90年代前半の「情報システムと通信システムの融合の時代」に対し、90年代後半は「情報システムと制御システムの融合の時代」と言えよう。

にも関わらず、経営管理面からのアプローチというその発生の経緯などから、システム監査においてこの分野はほとんど手つかずである。この様な状況の中で、表題のテーマでの近畿会定例会(11/14)の発表にて一石を投じることとなった。

2. FAシステムとは？

(1)FAシステムの定義

ISOの定義する6層のCIM階層レベルにおいて、「FAシステム」とはレベル①から③まで、または④までを指すというのが一般通念である。

また、「JIS FA用語」においても「FA」の定義はレベル①～③(または①～④)に相当すると解釈できる。

(2)FAシステムの可監査性

現在の「システム監査基準」における「データを処理するものが対象」「集中処理又は分散処理のいずれにも適用できる」等から、ISO・CIM階層レベルのレベル②以上はシステム監査の対象と解釈する。

このことと「2-1(1)」よりレベル②～④を取り上げることとした。

3. FAシステムにおけるシステム監査の考察

「システム監査基準」の「実施基準」の項目との対応(略)を考慮に入れて、監査ポイント・着眼点の説明をおこなった。主なものは下記の通り。

(1)システム構成上の問題に関する考察

- ・ コンピュータ間、あるいはコンピュータと機器・装置類とのネットワーク及びインターフェースの選定は最適か？
- ・ PL法については考慮されているか？
- ・ 電気関連・通信関連の法規の遵守はされているか？
- ・ センサ等の自動入力の場合、入力源でのデータの正当性、正確性は検査されているか？

(2)システム開発上の問題に関する考察

- ・ 特殊な言語やOSでの開発要員は確保されているか？
- ・ I/O部分のテスト装置はどのようなものか？
- ・ 開発に際して生産ラインや現場作業の分析が出来ているか？

- ・ 総合テスト時、開発要員は生産ラインの機械の動きや現場での安全教育がされているか？
- (3)システム運用上の問題に関する考察
- ・ 停止が許されないケースが多い中での、対障害性の考慮されたシステム構成となっているか？
 - ・ 熱・粉塵・電磁ノイズ等、使用環境への配慮はされているか？
 - ・ 非常停止機能等、人的安全対策は考慮されているか？
 - ・ オペレータである現場作業員の教育の時期、内容は妥当か？

4. FAシステムとシステム監査関連の各種基準書

- (1)情報システム安全対策基準との関連の考察(内容記述略)
- (2)コンピュータウイルス対策基準との関連の考察(内容記述略)

5. FAシステムにおけるシステム監査人の養成

本分野におけるシステム監査人の養成は容易ではないが

- ① システム監査技術者試験合格レベルの能力を持つ
 - ② FA関連の幅広い知識・技術に興味を持ち吸収する
 - ③ 社内外にOA、FAシステム両方の技術上の情報網を持つ
- 等が肝要である。

6. FAシステム監査の他の適用分野

「1.はじめに」で述べたように、情報システムと制御システムが接続・接合したシステムであれば、FA分野でのシステム監査の研究がかなりの部分役立つと考える。

7. 聴講所感：山田敏明(株)アスコット

私は、基幹システムとしての情報システム面のコンサルや開発を通じて、製造ラインやFAのイメージだけはありませんでしたが、明確なFAシステムの開発の経験がありませんでした。

FAシステムの監査は対象や、その視点の範囲が広く、大変難しそうな感じがしますが、今回のお話で私を含め皆様のFAへの理解が深まったことと思います。

(なお、この時の発表用プレゼント資料は、現在SAAJ近畿会のサイトでの公開を検討中です。)

中部支部からのご挨拶

No.124 原 善一郎

皆さん、こんにちは

「社会に貢献する中部支部」を目指して活動をしています。去年は堤副支部長のリードにより「ISO9000」にこだわってまいりました。実際に認定取得された会社や取得のための活動をしていらっしゃる会社の方々の、生々しい報告をお聞きし、また、自らも勉強する事をしてきました。中部支部の合宿では堀さんより「ISO9000の範囲よりシステム監査の範囲の方が広い」と明快にご指摘いただき、まさに、目から鱗が取れた次第でございます。

もちろん、ISO9000も大切ですし、これで苦勞をしているようではいけないのですが、私たち「システム監査人」は、もっと広い知識と見識と実力を持って、具体的に仕事をすべきでありましょう。

思い返せば10年ほど前にシステム監査人を志した時、「システム監査」そのものがほとんど存在していない時代でした。いまはどうでしょう。いまだに「システム監査が必要だといってくれる人がいない」と嘆いている会員が多いのではないでしょう。

しかし、同時に、独立して「システム監査人事務所」を開き、「システム監査」を受注している方もいらっしゃいます。新規顧客の獲得の第一歩として「システム監査受託」を位置づけ、かつ成果をあげていらっしゃる大手システムインテグレータがあります。

すなわち、誰かにしてもらう事を待っていたり、誰かが自分に利益をくれることだけを期待しているのでは何も進みません。あくまでも「ギブ&ギブ」であり、いずれの日にか「テイク」がくると考えるべきでしょう。

インターネット、パソコンの一人一台化などにより、「情報処理の大衆化」が進んでいます。そこで発生する問題は「プロの情報処理」の時代より遥かに複雑で深刻な問題を引き起こしかねません。衆議院議員の棚橋さんも「システム監査の重要性」は協会の会員として十分に理解をして国政に参加していらっしゃいます。各方面で活躍の会員の皆様一人一人が「自分は何で社会に貢献できるだろうか」と言うことを問いながら活躍したいものです。

今年も「中部支部に注目」をお願いします。

なお、SAAJ中部のメーリングリストに参加したい方はご連絡をください。

連絡先：原 善一郎

e-mail:znhara@pacific-ind.co.jp

NIFTY:PXP12756

中国支部だより

No. 387 安原 節男

暦のスピードについてゆけなくて、また、新しい年を迎えました。

私事で恐縮ですが、昨年の「システム監査企業台帳」に、中国通算局管内で第1号として弊社を掲載していただきました。

その実績となった事例等を中心に、昨年11月に、広島、松江、岡山と集中的に研修会を行いました。

それぞれ、他の団体等との共催になりましたが、多いところでは二十数名の参加があり、それなりの成果ではなかったか、と思っています。

会員の異動として、「関谷康雄(NEC)」さんが入会され、中国支部は16名となりました。次に桑原副支部長が事務所を広島市西区に移転されております。

今年も、最低でも昨年なみの活動ができればと、考えていますので、会員の皆様のご協力をお願いする次第です。

九州だより(8-12月)

No.000 行武 郁博

またまた、変わり映えのしない支部だよりで、例によって例会の報告です。

10月より福田さんの尽力でPATIOに月例会の内容がアップされています。興味ある方はそちらを見て頂くとして例会の主な項目のみを報告させていただきます。

システム監査学会の九州地区研究会が9月から2ヶ月毎に開催されることとなり、当支部の会員も出席されています。今後はシステム監査学会との交流を深めることも心がけたいと思っています。12月の例会は念願の2桁、12名の会員の出席が実現しました。今年も長崎、熊本、大分等福岡県外からの出席者が目立ちました。98年は更に例会の充実を図ってゆきたい。また、できれば福岡県外での例会の開催をやりたいと思っています。忘年会の最後は恒例となっ

た秀嶋さんの音頭で全員で「博多締め」、日本システム監査協会の発展を祈念してお開きとしました。

8月 出席者7名

- 電子マネーシステムの特許状況(行武)
- ソフトウェアサービス取引(中谷)

9月 出席者8名

- システム監査企業台帳の活用依頼(行武)
- システム監査学会九州地区研究会出席報告(鶴岡)
- 個人情報保護ガイドラインについて(行武)
- 複雑系とコンピュータ(秀嶋)

10月 出席者9名

- 西暦2000年問題(平山)
- インターネット/イントラネットセミナー参加報告(鶴岡)
- レガシーアプリケーション(秀嶋)

11月 出席者7名

- I S O 9000シリーズの動向(鞍馬)
- 情報処理学会年次大会、システム監査学会シンポジウム参加報告(行武)

12月 出席者12名

- 98年度支部役員選出及び運動方針検討(全員)
- 国税庁の「帳簿書類の電子データ保存等に係わる税制改正要望」について(赤塚)

ホームページのリニューアルについて

前号でもお知らせしましたが、日本システム監査人協会のホームページのアドレスが変更になりました。新しいアドレスは

<http://www.saa.or.jp>

です。併せて11月15日にページカウンターが付けられ、98年1月8日現在1,603名の方がご覧になっています。また、情報処理振興事業協会(IPA)のサイトセキュリティのページなど各所からもリンクされるようになり、少しずつ注目されています。

そこで、一層の内容の充実を図るために、新たに各研究会、支部のページを設けることにいたしました。この会報が届けられる頃には新しいページが追加されている予定です。システム監査を広める一貫としての役割を果たすためにも、皆様のご意見ご感想お待ちしております。よろしく願います。

ホームページ担当一同

コラム

最近、会報が全体的に堅苦しいとの意見も散見される(散見されるなんていいかた自体が堅苦しい)。確かに、いろんな情報を掲載しようとして字は小さく全体的に詰まりすぎ(45歳すぎると読むのに頭痛がする)、文書も報告調、論文調となってきた。会報の編集委員でも、会報の役割については絶えず議論されており、会報は会の活動内容を会員の方々に広く知らしめる為のものであり活動内容を中心に行うべきだとの意見(会広報派)や、システム監査のノウハウや理論を中心にして学会誌的な性格との意見(学会派)や、議論をする場でありその為に問題提起をする場であるとの意見(マッチポンプ派)、もっとサロンのようなものでいろんな人の交流が図れる場である(興業種交流派)など百家争鳴、百華繚乱、百貨店繁盛である。

そんな議論の中で、息抜きの場が少なすぎるのでコラム的なものを作ろうと言うことになりとりあえず、きっと現れる正義の見方コラムニストが現れるまで、編集員が息を抜こうとの事に相成りました。

その第一弾として、今回はインターネットサーフィンと称して、少し為になるお話を一席。

ところは、www.mpt.go.jp言わずと知れた民営化で行革の目玉となった、郵政省のホームページ。色んな委員会が開催されて様々な補助金の元、研究調査書が人目を引くことなく掲載されている。その中で、システム監査人の目を引いたのが「情報通信ネットワークの安全性・信頼性に関する研究会」の字面。これに効率性を入れれば、まさにシステム監査の定義ではないかと一人早合点。ブラウザをじっと見ること数十分(この間、元郵政のNTTは確実に儲かったはず)、ウイルスの定義やなんやら色んな事が書いてあるが、興味を引いたのが、パスワードのよい付け方。パスワードの悪い事例はたびたび紹介されているが、よい付け方とは?。ちょっとだけ引用すると、

「例えば「UNIXセキュリティ」の著者の1人である、Gene Spafordは、tl*hw というパスワードを考えの1つとして示した。(Twinkle Twinkle Little Star, How...から頭文字を使っている。)

文章として、何を利用するかは色々あるが、

日本では「カラオケ」で歌う歌詞はどうかと提案している。

この方法は、自分の利用した歌詞を外部の他人から推測されるケースは少ないと言えるが、内部の人間には類推される可能性がある。部外者だけでなく、部門内の人をも考慮するのであれば、もう少し別の歌等を考える必要はある。(必ずしも歌でなくても、詩とか短歌とか、あるいは自分の好きな文章の1節でも構わない。)(報告書から)

とある。この他に、これを利用して月の数字などをその番号の所に挿入するなどして、月替わりパスワードを作るなどの事例が紹介されている。なるほど、自分なりのパスワード生成ルールを作ることで無限のそれも覚えやすいパスワードを作ればいいのかと納得。これならば接続する度に「よさく〜よさくは木を切る…」なんてひっそりと歌いながら楽しく仕事ができるかも知れない(仕事中に鼻歌歌うなよなんてこれを読んだ人は注意しないで下さいね)。決して、ふられた人の名前なんかを綴って仕事する前に暗く落ち込むなんて事がないように……。

監査人もこれをやるな、これをしたらダメだという方式でなく、こんな事したら楽しくそしてシステム全体の安全性、信頼性、効率性があがるんだという基準書なんて作ったら面白いかも？

この駄文がコラムニストの出現の呼び水となることを祈願して……。 (編集子 Y.K.)

<会費振込のお願い>

前年度(平成9年1月1日~平成9年12月31日)の会費(正会員10,000円、準会員8,000円)を未納の方は、下記宛お振り込み下さい。

◆郵便振替口座

00110-5-352357

加入者名 日本システム監査人協会事務局

◆銀行振込口座

第一勧業銀行 北沢支店 普通 1053488

口座人名 日本システム監査人協会事務局長
中尾 宏

(注 意)

- ◇ 振込人の氏名の前に会員番号を付けて下さい。
- ◇ 法人会員の場合も企業名の前に会員番号を付けて下さい。

「会員が書いた本」紹介

実例でわかる「共同物流」による コスト削減の具体策

No. 239 小野 修一

この本の著者である梅津尚夫氏は、本協会の設立メンバーの1人であり、現在、本協会の顧問を務めていただいています。梅津氏は現在、(有)アサップ経営システムコンサルティングを経営し、経営・情報化コンサルティング、特に流通業における企業情報化の指導に活躍されています。

今回出版された本書は、ロジスティックと共同物流についての入門書です。今日の流通業においては「情報化と物流」が大きなテーマであり、その具体的内容としてEDI(企業間データ交換)と共同物流が不可欠な戦略となってきています。

本書は流通業における「共同化戦略」の先端的事例を採り上げ、共同物流におけるノウハウ、成功のための考え方・取り組み方を、多くの図表を使用して具体的に分かりやすく説明しています。また、EDIの進展による業務プロトコルの標準化、QR(クイックレスポンス)やECR(エフィシヤント・コンシューマ・レスポンス)による物流効率化と物流コストの削減、SCM(サプライ・チェーン・マネジメント)などにも触れています。

本書は流通業における事例に基づいて書かれていますが、その内容は他の業界でも大いに参考になるものであり、ぜひ一読されることをお勧めします。

著 者：波形克彦、梅津尚夫

発 行：(株)経林書房

定 価：1,800円

新規入会個人会員

番号	氏名	勤務先・所属
782	内藤 正敏	(株)CSK ネットワークマネジメント事業部
783	高橋 正一	監査法人 トーマツ 監査Aグループ
784	大野 淳一	共立コンピューターサービス(株) システム監査室
785	吉田 登	横河デジタルコンピュータ(株)

第11回日本システム監査人協会 総会のお知らせ

下記の通り、第11回日本システム監査人協会総会が開催されます。万障お繰り合わせの上、是非ご出席ください。

日 時 98年2月27日(金)
 13:30-16:15 記念講演
 16:15-16:45 プロジェクト報告
 16:45-17:45 総会
 18:00- 懇親会
 場 所 日本ユニシス(株)
 東京都豊洲1-1-1

記念講演

1. ERP、その現状と将来(仮)

ERP研究推進フォーラム専務理事 和田 英男氏

2. インターネットの不正アクセスの現状とJPCERT/CCの活動

JPCERT/CC運営委員会 白橋 明弘氏

発行所	日本システム監査人協会	会報担当(ご投稿、ご意見、ご要望は下記まで)
発行人	橘和 尚道	三谷慶一郎 (株)NTTデータ経営研究所
事務局	〒151 東京都渋谷区笹塚2-1-6 笹塚センタービル5F (株)産能コンサルティング内	TEL. 03(5467)6321 FAX. 03(5467)6322 QZG07732@niftyserve.or.jp
ホームページ	http://www.saaj.or.jp	金子 長男 (財)公営事業電子計算センター
※ご連絡はなるべく郵便または、FAXでお願いします		TEL. 03(3343)4560 FAX. 03(3343)6742 kaneko@pvc.or.jp
		富山 伸夫 (株)データ総研
		TEL. 03(5695)1651 FAX. 03(5695)1656 GFF00037@niftyserve.or.jp
		木村 陽一 CSKネットワークシステムズ(株)
		TEL. 03(5321)3208 FAX. 03(5321)3201 yoichi.kimura@k-van.co.jp
		山内 美佐子 シーティーシーシステムデザイン(株)
		TEL. 03(3419)9098 FAX. 03(5430)8047 yamauchi@ctc-g.co.jp